

会報 いづこうげん

夏号
2025
No.1
7月1日発行

75

CONTENTS

☆令和7年度 総会報告

◇第2回アンケート集計結果

◇「私の年会費、いったいどこへ消えてるの？」という声、ちゃんと届いてます！

◇会員だより ◇会員は「お客様ではありません」 ◇合併浄化槽の導入

◇ご存知ですか、親和会

伊豆高原親和会

静岡県伊東市八幡野1208-95 ☎0557-53-1122



親和会公式掲示板

令和7年度総会報告

雷鳴が轟く中、たくさんの会員

の方の参加を頂き、ありがとうございます。出席者84名、議決権行使書982通、計1064名で、定足数937名を満たし、無事、年次総会を終了することができました。とはいえ、参加は、会員2810名の37.9%であり、何とか成立したと言えなくもない数字です。

議決権行使書による白紙委任が217通あり、総会議案に対する関心も低いのではないかと危惧する次第です。

1. 報告事項

令和六年度の事業報告、及び収支決算書については、質疑応答を経て承認されました。質疑において、事業遂行の具体的な流れ、仕組みを知りたいとの質問がありました。

正式な事業報告は年に一回、総会においてまとめて報告される

だけです。

親和会ニュースで触れられることがあっても、詳しい内容が分からないのも致し方ないかも



れません。広報担当者として反省しきり、今年度からは、この会報を通して、計画された事業の遂行状況を詳しく報告していきたいと思えます。また、いくつかの要望事項もありましたが、残念ながら現状の人員と予算では、できる事にも限りがあります。この辺りの実情についても、会報を通して正確に伝えていきたいと思えます。

2. 第二号議案

令和7年度事業計画及び予算についても、質疑応答を経て承認可決されました。質疑において、第4地区の城ヶ崎桜並木の道路管理について質問と要望がありました。分譲地内の道路のほとんどは、伊豆急コミュニティーの所有であり（一部は伊東市道）、親和会が管理することになっていま

す。
例外として、この城ヶ崎桜並木通りと、第1、2地区を東西に貫く伊豆高原桜のトンネル通りとは、伊豆急コミュニティーが管理することになっています。会員からの要望があれば、親和会から伊

豆急コミュニティーへと伝えられ、場合によっては、協力しながら対処しています。

加えて、会費費目の内訳、支出金の使途について、未収金に関すること、防犯カメラ、防災マニュアルに関することなどの質問がなされました。事業計画にある内容も、常日頃から事業内容を周知していれば、自ずと理解できることも多く、前述したように、会員の皆様に広く、正確に伝えるとともに、地区連絡会を介して会員と親和会との間の情報交換を密に図りたいと思います。



令和7年度役員体制

令和7年度役員選任については、開催通知（議案）を発送した後、役員2名が退任することになったため修正案が提示され、承認可決されました。議案は、理事の選任に関する事項のみです。

今回は、議事進行を中断し、令和7年度新役員による臨時持ち回り役員会（書面決議書による）が開かれ、新たな役員体制案が提示されました。新役員体制についても以下の通り承認されました。

理事	理事	理事	理事	副理事長	副理事長	副理事長	副理事長	理事長
長島 朋子	佐伯 誠	室木 裕美	双川 文吾	西村 保重	濱中 淳宏	福田 美津夫	武内 博	水野 由康



先の親和会総会において、室木裕美氏が新理事として選任されましたが、その後一身上の都合により退任されました。

これを受け、親和会規約10条5に基づき第1地区推薦の大塚辰男氏が後任理事として承認可決されました。

理事	理事	理事	理事	監事	監事
中西 鉄也	前田 悟	落合 勉	渡辺 保隆	株式会社 伊豆急コミュニケーション	株式会社静岡銀行

新理事長あいさつ

皆様、こんにちは、この度、親和会の理事長を務めることになりました水野です。私は伊豆高原に住んで十三年になりますが、それ以前にはアフリカのタンザニアという国で十三年を過ごしました。アフリカのことわざを一つご紹介します。

「ミリマ・ハイクタニ・ラキンニ・ビナダム・フクタナ」

スワヒリ語で「山と山は出会わないが、人と人は出会う」という意味です。

タンザニアにはキリマンジャロという大きな山があり、そのすぐ隣にマウンジという小さな山があります。この二つの山は何千年たっても何万年たっても出会うことはありませんが、人間は足があるからいずれどこかで出会う、という意味です。

私たちはこれまでいろいろなところで生まれ、働き、そしていろいろな道を通ってここで出会いました。伊豆高原は海あり山あり緑あり、おまけに美味しい魚も

温泉もある理想郷となりうる所だと思います。しかし現実には、インフラの老朽化、独り住まい高齢者の増加、民泊施設の急増、依然として脆弱な地域交通に医療体制などいくつもの課題もあります。

伊豆高原で出会った私たちは、伊豆高原のこうした問題に共同して取り組み、伊豆高原を今以上に住みやすい街にしていくな必要があります。親和会は、そのために皆さんの声を取り込み、一緒に考え、解決に向けて一緒に行動する団体でありたいと思います。

本年5月、伊豆高原から初めての市長が誕生しました。伊豆高原を魅力ある移住先であり続け、同時に住み続けたい安住の地とする単に、伊豆高原の魅力と課題を知る新市長を迎え、行政とも手を取り合って住みよい伊豆高原作りに向かっていきたいと思っています。

皆様のご意見やご提案、お気づきの点がありましたら私たち役員もしくは事務所までお気軽にお知らせください。



第2回 アンケート集計結果

会報いづこうげん冬号に同封のアンケートに、御協力いただきありがとうございました。発送した2796通のうち、653通の回答を頂きました。

第1回のアンケート結果から、今後、親和会が進めていくべき活動を取り上げ、それぞれについて具体的な活動内容について、会員の皆さまのご意見を伺いました。なお、集計結果の詳細は、親和会公式掲示板(注1)からダウンロードするか、親和会事務局にて配布している紙媒体をご利用ください。

1. 回答者の属性

回答者の年代構成を、前回からさらに細分化してお尋ねしました。

65才以上の高齢者の高齢化率は71.5%、さらに後期高齢者の割合は38.3%に上ります。限界集落とは、高齢化率50%以上で、社会的な共同生活の維持が困難な状態にある集落と言われる



ています。親和会の分譲地を含む南部地域として見れば、今のところ社会的共同生活が維持されており、限界集落になるとは思えません。しかしながら、分譲地が孤立して限界集落となる恐れも無きにしても在らずで、親和会には、地域の自治体、市政と協力して、社会的な共同生活の維持のみならず、生活が向上するような活動が求められています。

分譲地を入手してから年数は、10年未満が36.8%、20年未満と合わせると64.8%でした。

2. 管理組合としての活動

第1回アンケート結果から、優先的に取り組む活動として「道路・側溝の修繕」と「道路・側溝の清掃」とが上がりました。

【道路・側溝の修繕】

前回のアンケート結果報告にもあるように、道路については、親和会の少ない予算では、交通の障害になるような破損など緊急性の高い箇所の補修工事に限られています。そこで中長期計画で道路全体の修繕を進めていくことを選択肢として提示しましたが、「現状のまま」という回答が68.3%でした。

側溝についても同様に、中長期計画で側溝全体の修繕を進めていくことを選択肢として提示しましたが、「現状のまま」という回答が73.0%でした。

親和会が管理する道路の総延長は45.6kmに及びますが、現

状の予算では、年間およそ数百mの修繕しかできません。そこで、期間を区切り計画的に道路全体の修繕を進めていくことを提案しましたが、現状のままでよいとの意見が大勢です。無い袖は振れないということでしょうか。

もちろん、所有者である(株)伊豆急コミュニティー(以下、伊豆急)の協力を仰いでいますが、管理費など分譲地からの収入が全く無いことから、伊豆急としても無い袖は振れず、協力には限りがあります。

また、市道への移管を進めるべきとの意見が多数ありましたが、事は簡単ではありません。

伊東市は、市道としての要件を満たす状態でないとき引き取ることはせず、そのための改修費用、移管時に必要な測量等の費用は所有者の負担です。移管してしまえば、確かにこちらの管理負担は減りますが、伊東市も移管に掛けられる予算、その後の修繕に掛ける予算が潤沢にあるわけではなく、道路が良くなるとも限りません。

結局、伊東市は移管に消極的、所有者である伊豆急の負担は大

きく、利用者である会員のメリットも少ないと思われ、移管が進まないのが現状です。

分譲地の将来についての関心は高く、第1回アンケート結果から、インフラの整備に対する要望は高いものの、会員の要望は「出費は増やさないで」とのこと。昨今の物価上昇、人件費高騰で、「現状のまま」でも費用が増える傾向にあり、このままでは、なす術が無いと言ってよいでしょう。



【道路・側溝の清掃】

道路の清掃、側溝の清掃についても、「現状のまま」という回答が7割前後を示しています。道路・側溝の修繕よりも費用負担が少な

いことから、委託費用を増やしてもよいとの回答は少なからずありました。

基本的には、敷地内とその前の道路、側溝の清掃は、所有者である会員にお願いするところです。高齢で自ら動けない、別荘利用で頻繁に来られない等、事情は様々かと思いますが、やはり会員一人一人の自助努力に頼らざるを得ない状況です。

3. 自治会としての活動

第1回アンケート結果から、優先的に取り組む活動として「地域医療の充実に向けた行政への働きかけ」と「公共交通の改善に向けた行政への働きかけ」とが上がりました。



【地域医療の充実】

具体的な対応については、専門医、専門病院による医療のバックアップ体制確立が最も多く、訪問医療の充実、かかりつけ医と市民病院とを含む高度医療体制の2項目が続きました。地域の医療体制は、定住会員のみなならず、これから定住を考えている会員にとっても、重大な関心事項です。また、地域の高齢化に伴い、医療に頼らないための健康維持のための活動、加えて生活サポート、独居見守りなどの活動も必要です。市政に対する働きかけのみならず、地域包括支援センター、民生委員、健康づくり推進員（旧保健委員）などの組織に対して、親和会として積極的に協力していく必要があります。また、親和会単独ではなく、周辺の自治組織と連携して行政に働きかけていく必要もあります。

【公共交通の改善】

公共交通については、既存のバス、タクシーの利便性向上が半数を占めました。車社会と言われて

久しく、自家用車の利用で問題は無いようにも思われます。しかしながら、高齢化に伴う運転免許返納後において、日常生活の足が確保されていることは、定住会員に限らず、別荘会員にとっても必要です。

本年1～2月に行われたミニバスの実証実験は、短期間であるにも関わらず、好評のうちに終りました。来年度も実証実験を継続する予定であり、定期的な運行を目指して、親和会として積極的に協力していく必要があります。



4. 自主防災組織の活動

第1回アンケート結果から、優先的に取り組む活動として「災害時の通信手段の整備」と「災害時の対応に関するマニュアルの整備」とが上がりました。



【災害時の通信手段】

災害時の通信手段として、親和会事務局に衛星回線を利用した通信設備の導入に半数以上の回答が得られました。親和会では、自家用発電装置を含む緊急時の

通信手段を確保すること、その運用方法について既に検討を始めています。

【マニュアルの整備】

既存の防災マニュアルの更新、地震に備えた具体的なマニュアルの整備に同数の回答が得られました。既に親和会連合自主防災会にて整備作業が始められており、静岡県、伊東市が発行する広域の災害マニュアルに基づき、親和会に特化した具体的なマニュアルの整備を進めています。



5. 親和会の運営

管理組合としての業務を外部に移管すべきとの意見がありました。伊東市内の分譲地の多くが管理業務を民間の専門業者に業務委託しています。



しかしながら、親和会のボランティアが無償で行っていた管理業務を、外部に委託するということは、当然に費用が発生します。既出の項目の回答から、会費の値上げが難しい状況で、新たに外部に委託し高額な費用を支出することに賛同が得られるのでしょうか。

6. まとめ

アンケートの結果から伺える課題として、会員の高齢化と予算不足の二つがより鮮明になりました。加えて、自助努力に限界があり、限られた予算状況の中、優先的に取り組むべき活動を把握することができました。しかしながら、現状の年会費の使い途は、過去の会報いづこうげんでもお知らせしたとおり(注2)、各事業に必要な費用を逆算すると、全く足りていない状況です。

管理組合としての優先的に取り組むべき活動に徹した場合でも、最低限の予算を確保が必要です。

今回のアンケートでは、複数の中長期的な計画を提示しましたが、会費を増やしてまでの活動は望まれていないことが分かりました。しかしながら、昨今の物価上昇、人件費高騰、担い手不足の状況にあつては、現状を維持、すなわち会員の要望に沿った最低限の活動を行う場合でも、会費の値上げは避けて通れないと思われます。

今後の親和会の運営を考える上で、難題を突きつけられた格好と言えるでしょう。

第1回アンケート冒頭に、「親和会としては、より安全・安心・快適に暮らすことができ、分譲地の資産価値を維持するための取り組みを継続して行く所存です。」と指針をお示ししました。親和会としての活動方針に変わりはありません。

上記の結果から、今年度の事業計画においては、優先的に取り組むべき活動について、現状を維持するために必要な予算を計上しました。前年度比で大幅に増加したことからも分かるように、近い将来、会費の値上げを含む事業計画の立案が必要になるかと思われます。

(注1) <https://izukogen-shinwakai.org>
(注2) 会報「いづこうげん」2024春季臨時号 P2・3 6・6発行
会報「いづこうげん」2024夏号 P10 R6・7発行

『私の年会費、いったいどこへ消えてるの?』

という声、ちゃんと届いています!

年に一度、19200円の私が納める年会費、ひと月あたり1600円!!

ちょっとした贅沢もできるその金額が、いったい何に使われていつのか? 気になるのもごもっともです。

この2年間、折にふれて会費の使い道をお知らせしてまいりましたが、「もっとわかりやすく教えて!」というお声にお応えして、今回はあらためて、皆さまお一人

おひとりの年会費がどのように活かされているのかをご案内いたします。

2810名の会員から納められた当年度会費6317万円は、親和会の**共益費・管理費・自治会費**として使われています。昨年度は6604万円を使って共益費の維持管理、自治活動を行いました。

※左記の表は、決算収支書の仕訳(分類)方法とは異なります。

共 益 費

1か月あたり 973円

道路保全(601円/月)
・補修工事 529円
・街路灯 72円

下水施設(160円/月)
・浸透池/側溝保守 144円
・害虫対策 16円

ゴミ収集(212円/月)
・ゴミ収集 182円
・GS保守管理 30円

管 理 費

1か月あたり 509円

管理・清掃(477円/月)
・環境整備(道路清掃・側溝清掃) 171円
・管理事務委託(会員情報管理) 155円
・管理経費(事務所貸借作業車両) 151円

広 報(32円/月)
・会報「いづこうげん」(年2回) 17円
・広報「いとう」配布(年12回) 10円
・親和会ニュース(年12回) 4円
・親和会ホームページ維持 1円

自 治 会 費

1か月あたり 50円

防災・地域協力(50円/月)
・防災倉庫保守 24円
・イベント費 18円
・地域協力費 8円

次期繰越金(68円)

自治会費は区画の敷地面積により異なりますが、最も多い**年会費額である19,200円**を基準に、**ひと月あたり会費1,600円**の使途を試算してみました。





会員だより

『与生を楽しむ』

第三地区 キートン山田

十八歳まで北海道の大自然の中で生まれ育ち就職のため上京したのが昭和三十九年三月。

十月には東京オリンピック開催とあって大変な賑わいだった。建設関連会社に勤めていたので、年中作業服で、夏でもゴム長靴を履き地下鉄工事やビルの工事現場に出ていた。街ゆく女性の姿がやけに眩しくて、いろんなことに圧倒されていた日々。その時から将来は絶対に東京には住まないと決めていた。

最終的に縁あって二十年ほど前に伊豆高原を「終の住処」に。緑多く海風を感じながら暮らせるこの地に大満足している。

会社勤めをしながら、夜は週三日劇団に通って映画や舞台の俳優を目指す。二十二歳で脱サラして本格的に勉強をしていた時に、縁あって何故か声優の仕事の主

にするようになった。当時はまだ声優という職業はなく、役者がたまたま声だけで演じる仕事として副業的感覚でやっていた。ナレーターという仕事もなく、局アナが語り手としてやっていたので、自分がナレーターもやるなんて考えもしなかった。

声優を始めて数年が過ぎた頃に第一期声優ブームを迎えて、数々のレギュラー番組に出演させていただき、ファンクラブができてきたりして調子に乗りまくっていた。

三十五歳の時、プロダクションの分裂騒動に巻き込まれ、それがきっかけで仕事が激減しレギュラーが一本も無くなった。その時に実力があったわけではなく、事務所のお陰でやれていたことを知り愕然とした初めての挫折だった。ローンで家を買った、三人

目の子供が生まれたばかりの三十六歳。

毎月の支払いも滞り事務所から前借りし、親からも借金して急場をしのぐも続かず、アルバイトを始め、家では単純作業の内職を夫婦で黙々とやる日々。

作業をしながら妻から「安定した収入がある仕事をしてほしい」と言われた。誰にも相談できず悩みが深まるばかりで、遂には何も感じない抜け殻になり、ただ街を彷徨っていたことも度々。

ある時「もうこれ以下はないだから」と開き直る瞬間があつて「ヨシ!! やり直そう!」と腹が決まった。三十八歳の春。

最初に思い立ったのが芸名。「キートン山田」はここで誕生。



当時、カタカナの名前の声優はいなく、事務所にも恩人にも「そんなふざけた名前はダメだ」と反对されたが、この時ばかりは毅然として譲らなかった自分にびっくり。

その年の秋、新番組のナレーターに抜擢されたが、ナレーションは初体験。この時も開き直るしかなかった。七年も続いてナレーターの基礎を築くことができた。

若いディレクターが珍しい名前を見つけ、ボイスサンプルの声を会議の場で聴き決定したと数年経ってから知らされた。翌年の春、NHK教育番組のオーディションに受かり四年間楽しんできていた。(こちらは顔を出しての出演)

四十四歳で「ちびまる子ちゃん」のナレーターに。

候補者が何人もいる中、試しに収録した僕の声の聴いた原作者の「さくらももこ」さんが、「この声、このしゃべり方が欲しかった!!」と本当に喜んでいたら後になつて聞く。

運が良かったただだと心から思っている。只粘り強かっただけ

で、自分に負けない大切さを学んだ。



六十五歳の時に自分の定年は七十五歳と決め二〇二二年三月、

その時が来た。でも仕事は忙しく「ちびまる子ちゃん」「ポットンと一軒家」「週刊ニュースリーダー」「ローカル路線バス乗り継ぎの旅」等等。なかなか引退しづらい状況だったが、関係者の方々に御理解をいただき円満に引退。

全く悔いもなく恨む人もなく感謝あるのみ。

今は野菜を作ったり、柑橘類を育て、ジムに通い、五十九歳から始めたマラソンを続けている。初マラソンはホルルマラソンで七時間四十七分だったが、ゴール後の達成感がたまらなくてハマ

る。六十九歳までフルマラソンだけで十五回完走。コロナ禍になつて全く走らなくなり、一昨年の「伊東オレンジビーチマラソン大会」から再開。

何があつても「そう来たか!」と真正面から受け止めて「死ぬまでは絶対に生きる!」「生きている内は絶対に死なないぞ!!」と自分に言い聞かせている。

※与生：あえて「与えられた命」と書いています。

キートン山田

1945年 北海道生まれ 本名：山田俊司
主な出演作品に、アニメ『ちびまる子ちゃん』(ナレーション)、アニメ『一休さん』(足利義満)、アニメ『ゲッターロボ』(神隼人)、アニメ『サイボーグ009』(004 アルベルト・ハインリヒ)、アニメ『銀河英雄伝説』(アレックス・キャゼルヌ)『ローカル路線バス乗り継ぎの旅』(ナレーション)『ポットンと一軒家』(ナレーション)など多数。

2021年3月28日に放送された『ちびまる子ちゃん』をもって半世紀にわたって活躍を続けてきた声優・ナレーターの現役引退を発表。



会員は「お客様ではありません」

「親和会は何もしてくれない」と不満を口にする方がいます。

確かに、親和会の活動が見え難いところがあるのかもしれませんが。しかし、そもそも親和会とは「会員が全員で自ら運営し、支え合う共同体」であることをご理解されていますでしょうか。

親和会の役割は、

会員の共益を支えること

親和会は、ゴミステーションの管理や道路・側溝の保全、防災活動や地域イベントの運営などを、親和会会員が自ら協力し合って維持しています。「ゴミステーションが汚いから何とかしろ」「側溝をすぐに掃除しろ」と、まるでお客様のように高圧的に要求される方がいます。そして「会費を払ってやっている」と続きます。確かに月額1650円(平均)の会費を納めて頂いていますが、



そのほとんどは道路・側溝・浸透池の保全とゴミ収集に費やされています。その他の活動は、会員が少しずつ負担し、助け合うことで成り立っていることにご理解がないようです。

「自治」は「自ら治めること」

誰かがやってくれるのを待つのではなく、自らも親和会の一員として、できることを考え、行動することが求められるのです。

例えば、ゴミ収集所の汚れが気になるなら「誰かがやる」と考えるのではなく、どうすれば清潔に保てるかを提案してください。側溝が詰まっているなら、少量の落ち葉ならご自身で取り除くこともできるはず。親和会は、そうした「みんなの小さな協力」で成り立つ自治会組織だということを改めてご理解ください。

地域をより良くするために

親和会では役員や輪番班長さんが地域のために活動をしています。しかし、その役員や班長も皆さんと同じ「会員」です。忙しい時間の合間を縫って、ボランティアとして地域のために尽力しています。

彼らの努力を「当然のこと」と思われる方はおられないと信じていますが、時として酷い言葉を耳にします。

親和会を「サービス会社」と考えて「何もしてくれない」と不満を抱くのではなく、自分自身もその一員であることを意識してください。

地域や近隣との接触を嫌って、伊豆高原に移り住まれた会員も多くおられます。

地域との関わりを一切持たずに静かに暮らしたいとお気持ちには良くわかります。しかし、近い将来に予測されている大震災、その時も地域に頼らずご自身の力で乗り越える覚悟をお持ちの方は、どうぞ事前にお知らせ下さい。

親和会から一切のお声がけはいたしません。

会費のご納付さえあればゴミステーションや道路・側溝など共用物はご利用いただけます。





環境を守る第一歩 合併浄化槽の導入

伊豆高原の分譲地はその美しい景観と快適な環境で知られていますが、下水設備が脆弱です。各戸に浄化槽を設置し、敷地内での自然浸透を前提とした処理が必要です。

他の分譲地と違い、親和会エリアには側溝が備えられています。側溝は基本的に雨水排水用ですが、合併浄化槽で処理された生活排水の受け皿でもあります。幸いにも昨今話題となっている水管の老朽化による陥没事故の心配は無用ですが。

しかし、一部には単独浄化槽を利用している方もいらっしゃると思います。そこで、環境を守り、快適な生活を続けるために、合併浄化槽への変更の必要性を皆さまと共有したく思います。

合併浄化槽のメリット

合併浄化槽は、多くのメリット

があります。

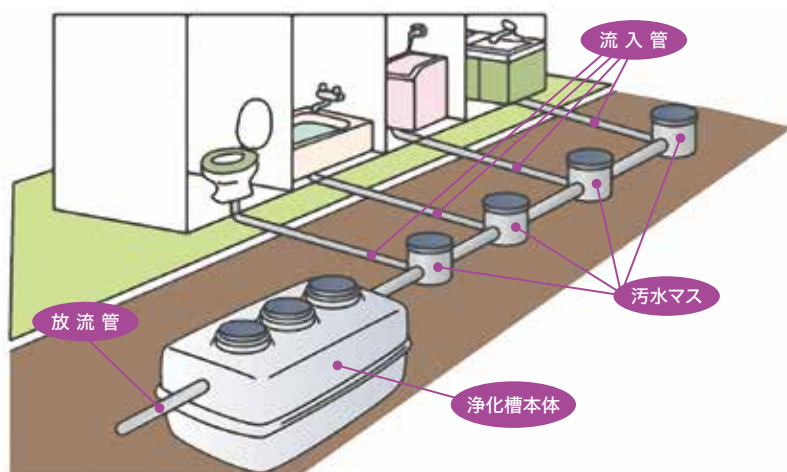
まず、処理能力が高く、生活排水をより効果的に浄化します。これにより、周辺環境への影響を最小限に抑えることができ、美しい景観を維持する手助けとなります。

また、合併浄化槽は定期的なメンテナンスが必要ですが、そのおかげで機器の寿命を延ばし、トラブルを未然に防ぐことが可能です。

排出口の臭いは大丈夫？

浄化槽の適切な管理は欠かせない要素です。自治会が管理する道路、側溝、浸透池は、私たちの共益施設であり、皆様の協力が不可欠です。

合併浄化槽に変更することで、汚水の処理がより効率的になり、浸透池や地下水への悪影響を防ぐことができます。また、近隣と



比べ排出口の臭いが気になるお宅があります。

入浴剤や、洗濯洗剤・柔軟剤などは浄化槽で活躍する微生物を死滅され、機能を著しく損ねる場合があります。

法律と規制

平成十三年、浄化槽法の改正により、「合併処理浄化槽」の設置が義務づけられています。

旧式の単独浄化槽は法律や規制に適合していないことから、伊東市でも補助金を交付し合併浄化槽への交換を促しています。浄化槽の交換に関する手続きや補助金の申請方法については、親和会がサポートいたしますので、ご安心ください。

「親和会グランドゴルフ」

会員カード終了について

親和会が発行した「伊豆高原親和会グランドゴルフの会」会員カードは当クラブの解散に伴い、2025年12月31日で失効いたします。長い間、ご利用ありがとうございました。



ご存知ですか、親和会

◎総面積……………200万㎡(東京ドーム43個)

◎会員数・・・・・・・・・・・・・・・・2,810件

◎道路総延長・・・・・・・・・・・・・・45.6km

◎定住者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・980件

◎側溝総延長・・・・・・・・・・・・・約90km

◎ゴミステーション数・・・・・・・・・・50か所

◎温泉配給距離……………約82km

◎処理する不法投棄量約・・・・・・・・・・15t

【第1地区】

会員数 716件 定住者数 518件 班長さん 10名

【第2地区】

会員数 913件 定住者数 679件 班長さん 18名

【第3地区】

会員数 611件 定住者数 498件 班長さん 13名

【第4地区】

会員数 579件 定住者数 397件 班長さん 9名



防災区割りマップ、色で親和会の各地区を区別し、数字は各班を示しています。